

私は、大槌町の駅前付近の被災地現場にバスから降り立った時、言葉を失いました。JRの駅舎も、周辺の建物も全てが津波で流され消えてしまっていたからです。私達は、海まで続く草原を見ながら、無言で一心不乱にカメラのシャッターを切るしかできませんでした。廃墟となった町を見て、あの時、防波堤を軽々と超え、迫ってきた津波のことを想像すると、地震・津波等の災害の対しては、人間はあまりに無力で、弱い存在であることに気付かされました。

宿泊のホテルで、陸前高田で被災された校友の方に、震災当日のこと、その後の復興のこと等を聞きました。職場の同僚全員を亡くされた方と自宅が津波で半壊された方でした。お二人とも、市の職員・OBの方でしたが、懸命にそれぞれの立場で復興の仕事に取り組みられていらっしゃいました。先輩校友の方の、郷土・地元に対する愛と情熱を感じました。生きる意義は、生きていることに感謝をして、人の為、地域の為に役立つことだと先輩に教えて貰えたような気がしました。

私に被災地の復興の為にできることは、何だろうか？まず、被災地の現状を多くの人・周りの人に伝えることだと思うのです。次に、被災地の方を励ましてあげることだと思います。今回の応援ツアーも、被災地の校友を励ますという意義は十分にありました。言わば、心の応援です。最後に、義援金等の物的な支援です。義援金の募集も最近は少ないようです。でも、これから支援が必要なところもあります。一つ挙げれば、被災者の子息の進学・育英の支援がそうです。校友会としても、被災した現役学生の学費・生活費等の支援を考える必要があると思います。育英基金の創設をご提言します。

平成24年10月29日

谷川 吉彦